

■会議結果報告書■

会議名称	第5期 札幌市子どもの権利委員会 第4回委員会
日時・会場	令和元年6月12日（水）17：30～19：10 バスセンタービル1号館4階大会議室
出席委員	11人出席

議題等	概要等
議題1	<p>○「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」に基づく平成30年度取組状況の報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1に基づき、事務局より説明。</li> </ul> <p>○質疑・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの貧困対策の取組として実施している「子どものくらし支援コーディネート事業」について、3名の人員体制では対応が大変ではないか。相談内容は、複合的な問題が多いのか、経済的な問題が多いのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>－事務局：人員体制については、これまでの取組を検証のうえ今後検討していかねばならないと認識している。相談内容は、養育環境の問題が多く、経済的な問題は多くはない。</li> <li>－委員：この事業では、世帯をどのような支援につないでいるのか。</li> <li>－事務局：支援内容としては、関係機関への橋渡し、コーディネーターによる助言、制度を教えるという3つが挙げられるが、関係機関への橋渡しでは学校関係が一番多い。</li> <li>－委員：子どもの貧困対策の取組としては、掘り起こしをするターゲットがずれている可能性もあるのではないか。コーディネーターはどのようなところを巡回しているのか。</li> <li>－事務局：児童会館が多く、最近では子ども食堂なども巡回している。人員体制の拡大も含めて、コーディネーターに情報が集まる仕組みが必要だと思っている。</li> <li>－委員：コーディネーターは社会福祉士及び精神保健福祉士か。</li> <li>－事務局：資格としては、教員、臨床心理士、保育士。</li> </ul> </li> <li>・SNS相談の検証とあるが、スマートフォンやパソコンを持っていない人が1割程度いる中で、電子相談とアナログ相談をどう共同させていくのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>－事務局：相談件数が一番減っているのがEメール相談であるという状況に着目して、今回LINE相談の施行実施に至った。現在アシストセンターでは、面談、電話相談、Eメール相談を基本に行っており、色々な相談ツールを組み合わせ、より多くの方の声を拾い上げる取組を今後も進めていかねばならないと考えている。</li> </ul> </li> <li>・保護者への啓発活動について、特に乳幼児に対する虐待等を考えると、保健センターで行われている健診その他の際の取組が重要ではないか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>－委員：区役所に出生届を出す際に、その場で少し時間をとって、子どもの権利について知ってもらうような活動をする、保護者の子どもの権利の認知度も上がって、虐待の防止にもつながるのではないか。</li> </ul> </li> </ul>

	<p>－委員：乳幼児の保護者は忙しく、パンフレットとなると読む時間がないが、妊婦は比較的時間があるので、産婦人科などに配布してはどうか。</p> <p>－事務局：乳幼児保護者への取組はより一層力を入れていかなければならないと考えており、いただいたご意見も含めて検討していきたい。</p> <p>・若者活動センターに不登校や居場所のない子どもが来ていて、とてもよい施設だと思うので、こうした施設も紹介してほしい。</p> <p>－委員：学校での認知度が低いので、高校生へももう少し普及してほしい。</p> <p>－事務局：認知度については課題だと思っているので、しっかり取り組んでいきたい。</p>
議題 2	<p>○平成30年度札幌市子どもに関する実態・意識調査結果について</p> <p>・資料 2 に基づき、事務局より説明。</p> <p>○質疑・意見交換</p> <p>・重層的な普及啓発や情報提供を行わないと不安や悩みを持っている人には届かない。地域でもやれることがある。特に民生委員・児童委員や主任児童委員は日々勉強しているので、そうしたものを地域の中での気づきや見守り活動に活かしていくことが大事だと思う。</p> <p>・子ども同士が互いに支え合うための働きかけを進めるためには、ピア・サポートが学校教育や様々な場面で普及するとよいのではないか。</p> <p>－委員：ピア・サポートという言葉を使っていない場合もあるが、新しい学習指導要領の関係もあり、グループで意見交換をして、お互いを認め合いながら、相手の話をもとに自分自身も思いを新たにしていくという活動が、各教科を通じて学校でも行われており、今後さらに進めていかなければならないと思っている。</p> <p>－委員：高校でも、友達関係が原因で不登校になってしまう人が多い。今回ピア・サポートという言葉を初めて聞いたので、教員への講義だけで終わるのではなくて、もっと教育現場で実践してほしい。</p> <p>－委員：市立の学校だけでもピア・サポートがもっと広まると、不登校の子が減ったり、友達同士の助け合いにつながると思う。</p> <p>・子どもの問題を考える場合には、保護者への支援、家族を支えるという視点を持たなければならない。</p> <p>－委員：痛ましい事件が起きないように、若い保護者の方や、アンケートで否定的な回答をしている 1 割弱の層への救済が必要。児童相談所のマンパワーとスキルアップ向上だけでなく、子どもに会って情報を集めてくれる中間の方を増やすなど、セーフティネットをよりきめ細かくしていかないと、子どものところまで手が届かない。</p> <p>・弱い立場に置かれがちな方々にどこまで向き合えるかという、少数者の権利という視点がとても大切。</p>
その他	<p>○事務局からの連絡事項</p> <p>・次回委員会は 9 月頃に開催予定。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>